

和泉市小学校給食民間委託 現段階で競争入札は検討していない

和泉市学校給食調理業務委託化に関する交渉 確認事項のまとめ

- ①プロポーザル方式の業者選定継続、施設改善要求について
- ・現状はプロポーザル方式で行っており、現段階で競争入札は検討していない。
 - ・予算は限られているが、ドライ化の必要性は認識している。
 - ・調理員退職者数の見込みと委託予定校数のデータは示したい。
- ②仕様書作成への栄養教諭関与について
- ・仕様書作成は教育委員会事務局の責任で行うものであるが、栄養教諭の協力なしに作成できない。
 - ・期間の制約や、制度上の問題はあるが、できる限り情報の共有をはかりたい。
- ③委託業者への巡回指導について
- ・コロナ禍で差し控えていたが、緊急事態宣言が解除されたので、初年度校を重点に、2年目以降の学校についても、市教委事務局職員が巡回指導していきたい。



委託予定校数のデータは示したい

和泉市教委と確認した事項を左にまとめました。

**安全・安心な
学校給食を**

泉北教組は、和泉市学校給食調理業務委託化に関する要求書を和泉市教委に提出し、9月27日に栄養職員部と合同で、交渉を行いました。交渉では、参加した栄養教諭からは、今後の民間委託化の計画について、心配や不安が出されました。参加者による報告や指

今後の調理員退職者数、委託校の増加、ドライシステム改修工事、機器導入などの計画を考えると、安全・安心な学校給食提供に大きな不安を感じます。これからも和泉市学

校給食調理業務委託化について、注視していく必要があります。



2. 教員の研修は教育のいとなみと一体

教育の目的は人格の完成。子どもの成長・発達を助けることです。人間はいまでもなく自然や社会とのかかわりをおして、また、自然と社会との諸関係の中で成長・発達する存在です。学校教育の中心となる目的は、子どもたちが、自らがかわりをもちながら発達していく自然や社会についての基礎的、基本的な認識を身につけさせることにあります。

その基礎的、基本的な知識は、真理・真実にもとづくものでなければなりません。真理・真実は多数決では決まらず、学問の自由の保障のもとに研究され、確かめられてきた人類の英知の成果です。

教育と学問の自由がわかつていく結びついているのは、教育が真理・真実にもとづいておこなわれなければならないという、そのいとなみの本質に由来します。

子どもが理解、納得するためには、単に子どもたちに知識を伝達すればよいというものではありません。子どもたちは、そうした真理・真実にもとづく自然や社会についての基礎的、基本的な知識を自分の中に取り込み、自分の中で組み替えることによって理解していきます。

教育といういとなみは、そういうふうな子どもの内面に働きかけることによって、私たち大人の予測を超えた可能性を持つ新しい世代の実現をめざすという、未来に向けた創造的ないとなみです。これが、教育が負っている国民全体に対する重要な責務です。(つづく)

山口 隆 (大阪教文センター)

泉北教組に加入して子どもと教育を守ろう！